

[異常時通報連絡の公表文 (様式 1 - 1)]

伊方発電所敷地内での火災について

16 . 10 . 12
原子力安全対策推進監
(内線2352)

[異常の区分]

国への法律に基づく報告対象事象	有 ・ 無 [評価レベル -]	
県の公表区分	A ・ B ・ C	
外部への放射能の放出・漏えい	有 ・ 無 [漏えい量 -]	
異常の概要	発生日時	16年10月12日15時55分
	発生場所	1号・2号・3号・共用設備 管理区域内 ・ 管理区域外
	種類	・設備の故障、異常 ・地震、人身事故、その他

[異常の内容]

10月12日(火)16時25分、四国電力(株)から、別紙のとおり、伊方発電所の異常に係る通報連絡がありました。その概要は、次のとおりです。

- 1 10月12日(火)15時55分、発電所構内で作業員が煙を発見し、消防車を要請した。
- 2 なお、発電設備への影響はない。
- 3 本事象によるプラント運転への影響及び環境への放射能の影響はない。

その後、四国電力(株)から、

南東斜面の塗料倉庫から火が出ている。

塗料倉庫付近には、発電設備はない。

直ちに自衛消防隊による消火活動を実施している

との連絡がありました。

県としては、環境放射線テレメータ装置により周辺の放射線測定値等に異常のないことを確認するとともに、八幡浜中央保健所に現場の状況等を確認するよう指示しました。

(伊方発電所及び周辺の状況)

原子炉の運転状況	1号機	運転中(出力 %) ・ 停止中
	2号機	運転中(出力100%) ・ 停止中
	3号機	運転中(出力104%) ・ 停止中
発電所の排気筒・放水口モニタ値の状況		通常値 ・ 異常値
周辺環境放射線の状況		通常値 ・ 異常値

(参考)

1 国への法律に基づく報告対象事象

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づき、国（経済産業省原子力安全・保安院等）に対し、一定レベル以上の事故・故障等を報告することが義務付けられている。

国への法律に基づく報告対象事象に該当すれば、国際原子力機関が定めた評価尺度に基づき、7から評価対象外までの9段階の評価レベルが示されるので、異常の程度を判断する目安となる。評価対象外以下のものについては、安全に関係しない事象とされている。

2 県の公表区分

区分	内 容
A	安全協定書第11条第2項第1号から第10号までに掲げる事態 （放射能の放出、原子炉の停止、出力抑制を伴う事故・故障、国への報告対象事象 等） 社会的影響が大きくなるおそれがあると認められる事態 （大きな地震の発生、救急車の出動要請、異常な音の発生 等） その他特に重要と認められる事態
B	管理区域内の設備の異常 発電所の運転・管理に関する重要な計器の機能低下、指示値の有意な変化 原子炉施設保安規定の運転上の制限が一時的に満足されないとき その他重要と認められる事態
C	区分A，B以外の事項

3 管理区域内・管理区域外

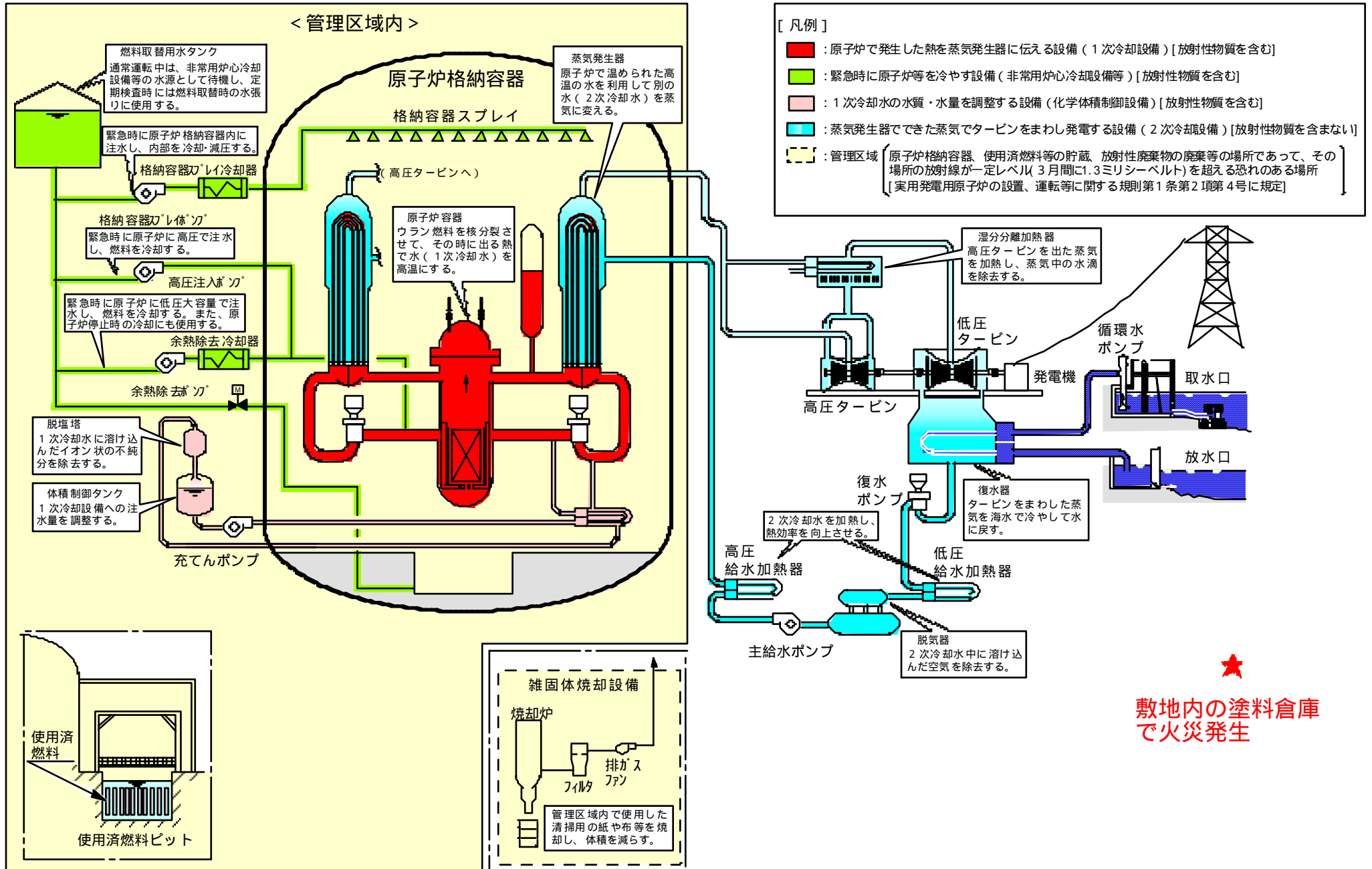
その場所に立ち入る人の被ばく管理等を適切に実施するため、一定レベル（3月間に1．3ミリシーベルト）を超える被ばくの可能性がある区域を法律で管理区域として定めている。原子炉格納容器内や核燃料、使用済燃料の貯蔵場所、放射能を含む一次冷却水の流れている系統の範囲、液体、気体、固体状の放射性廃棄物を貯蔵、処理廃棄する場所等が管理区域に該当する。

異常発生 の場所が管理区域の内か外かによって、異常の程度を判断する目安となる。

伊方発電所異常時通報連絡記録票 (第 報)

発 信 者	伊方発電所 渡辺	F A X 発信日時	平成/6年 10月 12日 16時 25分
受 信 者		F A X 受信日時	平成 年 月 日 時 分
号機(定格出力)	1号機 (56万6千kW) ・ <input type="checkbox"/> 2号機 (56万6千kW) <input type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> 3号機 (89万kW)		
発 生 前 の 状 況	1. 出力 2号 55万8千kW 3号 92万3千kWにて <input type="checkbox"/> 通常運転 <input type="checkbox"/> 調整運転 <input type="checkbox"/> 出力上昇 <input type="checkbox"/> 出力降下 <input type="checkbox"/> 中 2. 1号第22回定期検査中		
発 生 状 況 概 要	設備のトラブル ・ 人身事故 ・ <input type="checkbox"/> 火 災 <input type="checkbox"/> ・ その他		
	<p>1. 発生時間 10月 12日 15時 55分頃</p> <p>2. 場 所 発電所構内 84M付近</p> <p>3. 状 況</p> <p>発電所構内で、作業員が煙を発見し、消防車を要請しました。 なお、発電設備への影響はありません。</p> <p>本事象によるプラントの運転への影響および環境への放射能の影響はありません。</p> <p>4. 非常用炉心冷却系の作動 (<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> あり)</p>		
環 境 へ の 影 響	放射能	外部への放射性物質の放出	(<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> あり)
		放射能	放射能 放射性物質の放出量 (<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> 微量 <input type="checkbox"/> 評価中)
		放射能	放射能 野外モニタ指示値 (<input type="checkbox"/> 異常なし <input type="checkbox"/> 微小変化 <input type="checkbox"/> 変化)
		放射能	放射能 その他
連絡の理由 <input type="checkbox"/> 該当番号を <input type="checkbox"/> ○で囲む。 <input type="checkbox"/> 複数可	1. 電気関係報告規則第3条に基づく連絡 2. 実用発電用原子炉の設置、運転に関する規則第24条に基づく連絡 <input type="checkbox"/> 3. 安全協定第11条第2項に基づく連絡 4. その他		
当該機以外 の運転状況	1号機 (<input type="checkbox"/> 通常運転 <input type="checkbox"/> 調整運転 <input type="checkbox"/> 出力上昇 <input type="checkbox"/> 出力降下 <input type="checkbox"/> 定検停止) 中 2号機 (<input type="checkbox"/> 通常運転 <input type="checkbox"/> 調整運転 <input type="checkbox"/> 出力上昇 <input type="checkbox"/> 出力降下 <input type="checkbox"/> 定検停止) 中 3号機 (<input type="checkbox"/> 通常運転 <input type="checkbox"/> 調整運転 <input type="checkbox"/> 出力上昇 <input type="checkbox"/> 出力降下 <input type="checkbox"/> 定検停止) 中		
備 考			

伊方発電所 基本系統図



★
敷地内の塗料倉庫
で火災発生

周辺環境放射線調査結果

(県環境放射線テレメータ装置により確認)

平成16年10月12日(火)

(単位：ナノグレイ/時)

測定局	時刻	測定値(シンチレーション検出器)					平常の変動幅の最大値	
		15:40	15:50	16:00	16:10	16:20	降雨時	降雨時以外
愛媛県	モニタリングステーション(九町越)	17	17	16	16	17	4.1	1.8
	九町モニタリングポスト	23	23	23	23	23	4.3	2.4
	湊浦モニタリングポスト	15	15	15	15	15	3.3	1.6
	伊方越 モニタリングポスト	20	20	19	19	19	3.7	2.1
	川永田 モニタリングポスト	25	25	24	24	25	4.2	2.6
	豊之浦 モニタリングポスト	12	12	12	11	11	3.6	1.5
	加周モニタリングポスト	21	20	20	20	20	3.6	2.0
	大成モニタリングポスト	22	21	22	21	21	3.5	2.4
四国電力(株)	モニタリングステーション	14	14	14	15	15	3.7	1.6
	モニタリングポストNo.1	14	14	15	15	14	4.1	1.6
	モニタリングポストNo.2	13	14	14	14	14	4.1	1.6
	モニタリングポストNo.3	12	12	12	12	12	4.1	1.5
	モニタリングポストNo.4	14	14	14	13	14	4.0	1.6

降雨の状況：有・無

伊方発電所の排気筒モニタ等にも異常なかった。

(参考)

1 環境放射線の測定値は、降雨等の気象要因や自然条件の変化等により変動するので、原子力安全委員会の環境放射線モニタリング指針に基づき、測定値を「平常の変動幅」と比較して評価しています。

「平常の変動幅」は、過去2年間(平成13、14年度)の測定値を統計処理した幅(平均値±標準偏差の3倍)としており、一般に、測定値が「平常の変動幅」の最大値以下であれば、問題のない測定値と判断されます。

2 環境放射線は線量(グレイ)で表されますが、一般的に、これに0.8を乗じて、人の被ばくの程度を表す線量(シーベルト)に換算しています。

例えば、線量率約20ナノグレイ/時の地点では、1年間に約0.14ミリシーベルト(ミリはナノの100万倍を表す)の自然放射線を受けることとなりますが、これは、胃のX線検診を1回受けた場合の4分の1程度の量です。

(放射線量の例)

